

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一人一人の入居者様に対する思いを取り入れ、独自の理念をつくり日々のケアに生かしている。	○	今後は地域密着型サービスとしての取り組みを増やし、より心豊かに生活の質を上げていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活介護の中で理念である、その人らしさを大切に敬意の心をもってあきらめずゆったりと支援していくよう声を掛け合っており取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「花見会」等の行事の際にご家族様へ理解・協力が得られるよう説明会を行った。	○	事業所の理念や役割等を繰り返し説明し、まずは地域交流の場をつくり参加を呼びかけていきたい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に民家や店などがほとんどなく、交通の便も悪いなどの理由で、積極的に実施できていない。	○	近隣には学校や施設があるので、積極的にこちらから訪問する等、まずは交流する事から始めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加、幼稚園児の慰問など少しずつ交流の取り組みを始めている。	○	今後、地域活動への参加やボランティアなどの協力を得ながら継続していける交流づくりをしていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社会福祉協議会へ協力を依頼し事業所の現状を報告しつつ、社会参加の機会を促している。	○	地域への認知度が低い事を改めて確認することができたので、今後は、ご家族の理解を得ながら積極的に取り組んでいきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のミーディングで項目を読みながら、サービス評価を話し合い、課題に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーから質問、意見、要望を随時受け、双方向的な会議を行いサービスの向上に役立っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、特に行っていない。	○	必要に応じて行っていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会やマニュアルを通して学んでいる。	○	必要に応じてご家族様への説明がスムーズにできるように説明練習をしていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による虐待防止のため、特定の入居者からのストレス（暴言・同じことを繰り返す聴くなど）を継続的に受けないように、職員の勤務分担に配慮をして、ストレスの軽減を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、項目にそって、必要に応じて補足説明を入れながら説明している。不明な点が無いか確認している。契約の訂正時は、書面にて通知し同意をえている。その際、必要に応じて、口頭で説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や催しへの出席の声かけを行 い、その都度意見・不満・苦情を尋ねてい る。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族の来訪時には、声をかけ、近況報告を行 っている。何らかの変化や問題が生じた 場合は、必要に応じて電話などで報告を 行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見、不満、苦情に対して職 員間で対応を検討し、質の向上を図ってい る。運営推進会議などで、必要に応じて内 容の報告を行っている。	○	家族会の開催に向けて準備中（ご家族をお 呼びしての行事の時に家族会の発足説明予 定。3月24日（土）
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	会議の議事録を回覧し、検討課題等につい て、必要に応じてミーティングで話し合っ たり、会議に出席してもらい意見を反映せ ている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の状態の変化に伴い、早出、遅出 等、勤務のシフト、人数などの調整を行い 対応している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの関係の継続のた め、ユニットの合同行事なども取り入れて 馴染みの関係を作っている。夜勤者など兼 務のため全ユニットを把握している。併設 の老健との職員交代も最小限に行ってい る。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	基本的人権を尊重し、差別や偏見なく公正な職場環境作りを行っている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重のため正職員・パート職員に対して研修の機会をもうけている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員、新入職員教育を行っているが、計画・マニュアルが不十分である。	○	現在、計画・マニュアルを充実されるため、バージョンアップを図っている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、職員が自主的に地域の施設などの訪問を通してお互い勉強させてもらい、サービスの向上に貢献している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在、職員専用の休憩室が無く地下の更衣室を兼用している。	○	心身を休める心地よい場所の確保と、ストレス解消を図るため、コミュニケーションを図るように雰囲気作りを行っている。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の状況を把握し、努力や成果について把握している。職員の健康状態を把握し、体調不良時は、職員の交代勤務で対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活を共に過ごす中で、行動や表情、人間関係等の変化をできるだけ職員が早目に気づき、話を聞く事を重視しカンファレンスを行っている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時は、必ず近況報告を行うようにしているが、ご家族の要望を積極的には、聞けておらず面会の頻度や職員によって差がある。	○	行事へのお誘いを増やし聴く機会を増やしていく。今年度より家族会の発足も予定しており、交流を深めていきたい。
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を確認し、各関係機関（主治医・行政・地域の方々・他）や同敷地内にあるグループ施設（医師・看護師・理学療法士・介護福祉士・他）等へ相談し対応を実施しています。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを計画する段階でご本人様の意向を聞く様にしている。又、利用時はご本人様のペースに合わせ実行するようにしている。	○	地域との馴染みの関係はまだあまりできていないので、まずは少しずつ継続していける関係づくりから始めようとボランティアの訪問等を依頼をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや掃除等、共に行う事が習慣となりつつあり、その中でお互いに教えていただき、悩みを聞き、共に悲しむという生活シーンが多く見られるようになった。	○	自ら行動ができない方、意思表示の困難な方に対してまだ職員からの一方的な支援になっている事が多いので、今後も認知症ケアの取り組み等の勉強会を行ってきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の認識が変わってきてからは、少しずつご家族との関係が深くなってきているが、お互いがどこまで話していいのかとまどっている部分がある。	○	今後は、より交流を深め、ご家族との信頼関係をつくっていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「にこにこ新聞」を発行したり、お手紙など送っている。ご家族を招いての行事も、年2回から4回に増やして対応している。	○	疎遠なご家族への対応策として又は、個人情報保護の観点からも病院受診の同席などを働きかけていく予定。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会を促し関係が途切れないように、状況に応じて、外出支援を行っている。	○	馴染みの方との関係が途切れてしまった入居者に対して、新たな馴染みの関係をつくれるように取り組んでいきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	近頃では、利用者間で名前を呼び合いお世話をされる方など、集団での役割分担ができ、協力体制ができているが、人間関係のトラブルも発生している。	○	良好な関係を築く為に、サインを見逃さず情報を共有しケアに結び付けていきたい。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、地域にいらっしゃる方の面会や行事への声かけなどは、できるだけ行っているが、充分ではない。	○	ご家族への継続的な係わり合いを考えていきたい。
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	リスクを重視し、ご本人の意向が尊重されていないケースが多かった。現在、プランに徐々に盛り込み実行できるように取り組み始めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の私の生活シートを利用、又思い出の写真などを持ってきて頂き会話を広げ情報を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	必要に応じてセンター方式を使用しながら利用者の1日の流れ、状態を把握し自立支援に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を尊重しながら、できるだけ自立支援に向け関係者と話し合い、確認を取りながらプラン作成を行っている。	○	ご本人様の意志伝達の困難なケースについて、再度ニーズの把握をし、よりよいプランにしていきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて再アセスメントを行い現状にあったプランに変更し、対応をおこなっている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を日々記録し、情報を共有しながら職員同士のケアカンファレンスなどを行い必要に応じてケアプランに反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援している。	○	施設入所の場合、本人家族の希望に添った生活の場所探しの手伝いを行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアによる慰問行事などに参加している。その他に、地域の社協のボランティア窓口を利用できる、ボランティアの協力依頼をおこなっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	特に行っていない。	○	要望があれば行っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じてアドバイス等を受けられる関係である。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じた医療機関の受診が受けられる体制である。ご家族様の受診介助が無い場合は、ご本人様とご家族様の同意と納得を得て病院の変更を行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、主治医へ相談し、御家族の希望等も考えた上で治療できるよう支援している。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応可能な、看護職員が日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関とご家族様と連携を取りながら情報の提供し環境の変化による混乱を防いだり、スムーズな退院に向けて体制をたてている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族様と医療機関と三者で対応方法を協議し、方針を共有している。	○	当施設で重度化、終末期の介護をどこまで受け入れができるかを現在検討中である。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族様と医療機関と三者で対応方法を協議し、方針を共有している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護添書を使用しご本人様の状況、ケアの注意点等の情報提供している。必要に応じて口頭での説明も行っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関しては、職員間でも徹底した指導を行っているが、直接的な声かけ方法など、ご本人を傷つける結果になってしまったことがあり、気をつけるよう心がけている。	○	トイレ誘導時の声かけ方法など職員の教育の徹底を図り、ケアの質の向上に努めたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活のなかで、ご本人に自己決定の機会を意識的に設けている。必要に応じて、説明し、自己決定を支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせて、職員の勤務時間をシフトして対応している。しかし、夜間体は、1人体制なので、急変時など以外は、職員の夜間呼び出しを行っていない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々の衣類選び、外出、行事時の化粧等御本人の好みで行えるよう支援しているが、理容室への外出は実施できていない。	○	御本人の望みの支援が出来るよう今後御家族様地域への協力体制を作りつつ取り組んで行きたい。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりは、「普通の暮らし」として自ら調理や片付けを手伝う習慣ができてきている。月2回の食事会では、入居者にメニューを決めていただき、職員と一緒に同じものを頂いている。	○	食事づくりに参加できない方への支援とより一人一人の好みにあった食事を楽しめるよう取り組んでいきたい。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人より希望があれば、買い物の為の外出支援を行っている。	○	今後は、一人一人の意向を尊重した選択しやすい雰囲気づくりなど工夫をしていきたい。
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握は、状態の変化など必要に応じて行っている。自立支援を促し残存機能を維持・向上できるように取り組んでいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望を聞き、ほぼ実施できている。入浴拒否や夜間の入浴実施はできていない。	○	入浴拒否者の原因・理由の発見と家での暮らしとしての入浴を重視し、時間の選択や環境整備、工夫をしていきたい。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調・表情・動作などから安心して無理なく一日を過ごせるよう支援できている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話の中で、生活歴や楽しみ等を聞くように心がけ、すぐに実施できる事は、実施している。又、率先して行われる役割は、継続できるよう支援している。	○	今後はよりニーズを支援できるよう取り組んでいきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内の金銭所持は、行っていないが、必要時には、使えるように支援している。	○	紛失のトラブルを防ぐ為、全介助していたが、今後、買い物時には、希望される入居者様、御家族にも理解をして頂き職員の意識づけにて、多少、お金を所持できるようにして行きたい。
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所への買い物等は希望に添えるよう支援できているが、お一人一人のその日の希望に必ずしも合わせられていない。	○	希望のある方にケアが集中しがちなので、うまく言葉に出せない方への思いを理解し支援できる力をつけて行きたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の希望に添って演劇鑑賞・外食・ドライブ等実施できたが、気軽に掛けることが出来るという環境はまだできていない。	○	ホームでの体制作りを強化し御家族様と共に楽しめる機会をつくって行きたい。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があった際はすぐに対応できているが、必ず職員を通してのやり取りでしか実施できていない。	○	もっと当たり前に自らでやり取りが出来るよう支援していくと共にうまく言葉にだせない方へも「声を聴いて頂く」等の一人一人にあったケアをしていきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	気軽に来て頂けるよう訪問時は居心地よく過ごせる様「お茶を出す」等行っているが立地のせいか御友人等の訪問が少ない。	○	これまでの馴染みの関係が絶たれぬよう「訪問が少ない理由」を把握し支援していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対し、身体拘束について内容とご本人様の受ける弊害と苦痛をミーティングの中で話し合い、現在、身体拘束をしないケアを実践している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	山の中で横に川があり、近くに民家もなく地域とのつながりも殆ど無い環境の中、職員が常時出入りを見守ることの出来ないため、玄関に鍵をかけ、利用者の安全確保を最優先にしている。見守り可能な時は、開放している。玄関以外は、日中階段・エレベータ・汚物倉庫などを除き開放できている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	車イスからの立上り等で転倒が予測される利用者に対して見守りし易い位置を確保し、夜間、転倒転倒防止の為、ナースコール等で対応している。	○	夜間時、職員が1人で巡視しているが、利用者の状態が悪化してきた場合の状態把握方法の検討が今後予想される。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全確保のため物品チェック項目を必要最小限に行っている。必要に応じて鍵をかけたリ、手の届かない所に片づけたり、利用者の状態に合わせてチェック項目の追加・削除を行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居時、状態変化時等に応じて転倒の危険性などリスクを職員間で話し合い、ケアプランにも反映している。事故発生などは、ヒアリハットの報告、記録を行い、早急にカンファレンスを行い再発防止の検討を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に、マニュアルや勉強会を通して、急変や事故発生時対応に備えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老健施設との合同避難訓練や設備点検、災害マニュアル作成行っている。	○	確実な避難誘導が行える様、入居者様全員参加での火災を想定した訓練を予定している。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に応じて転倒の危険性などリスクをご家族と話し合い説明し、理解を求めている。ご家族の要望などで帰宅要求の興奮があり、玄関の開放はできていない。今後、状態変化を見ながら徐々に開放できるように見直しを行っているが困難である。	○	今後はお一人お一人の尊厳重視と安全を確保しつつリスクマネジメントを行いたい。又、御家族様との話し合いの場を多く設けて行きたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の傷病名等も把握し、常に顔色・状態の変化に気付けるよう努め異常があればすぐに看護師又主治医へ報告し対応している。	○	職員の観察力にまだ差がある為、今後も勉強会等を断続して行い力をつけて行きたい。
76	—	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に処方箋での確認や誤薬を防ぐ為の職員への認識を徹底し服薬後の状況変化はすぐに主治医へ報告している。		
77	—	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の観察はシートを利用し日々行っており、便秘がちな方の把握もできている。又自然便を促し、食事・飲み物の工夫をし、状態に合わせた薬の調節を行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ずお茶を飲用して頂く事と、就寝前の口腔ケアを習慣としている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士によりカロリー計算された食材で作っている。糖尿病やアレルギーの方の調節は職員が把握し行っている。水分量はお茶の時間を設け促している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	流行が予想される感染症についての資料を作り掲示している。日中・夜間にトイレ・手すり・ドアノブ等消毒を行っている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事の作り置きは必ず2時間以内とし、生物は当日届いた物を使用している。食材は全て検食分として保管し、食器類は全てアルコール消毒し、生野菜・果物は消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりには常に季節の花を飾っている。又入ってすぐにソファの設置。月ごとにテーマを替えた貼り絵や飾り物をしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にコタツを設置。1階ステーション内のソファは落ち着ける空間となり、職員との交流も楽しまれている。居室ドアに暖簾をつけている。	○	浴室・廊下・トイレ・居室等まだ家族的で居心地の良い空間になっていない所を改善していきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・ステーション・食堂の小スペースにソファを設置しており思い思いに使用されている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	近年入居された方には使い慣れた家具等の持ち込みをお願いし好みの部屋作りができていたが、以前より入居している方によっては、できていない方もおられる。居室によって差がある。	○	すでに入居年数が経っている方へは混乱が生じぬようより御本人が居心地のよい空間を作っていく。又、居室間違いやプライバシーを配慮し、ドア前に好みのノレンをつけるよう取り組んでいる。
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	立地的に自然環境に恵まれている為、日々外の空気を入れる事は習慣となっている。又、冷暖房は一人お一人の体調を考え特に居室内での使用時は注意している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや廊下の手すりは設置されているが、食堂・居室・脱衣所には手すりがない為介助となり自立支援ができにくい箇所もある。	○	家具の配置や福祉用具の使用を含め、お一人お一人の状態に合わせた工夫をしていきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や行動の失敗があった際は原因や理由を考え必要以上に排除する事は避け、自立できるよう工夫している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には入居者様と共に作業した植木の花を飾っている。向かいの畑では季節の野菜を作っている。ベランダにテーブルとイスを置き利用されている。	○	居室によって差がある為、ベランダの活用等は今後も力を入れて促す。常に職員の誘導ではなく、自由に行き来が出来る空間作りを検討して行きたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての利用者の	
					②利用者の2／3くらいの	
					③利用者の1／3くらいの	
					④ほとんど掴んでいない	
91	—	○利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①毎日ある	
					②数日に1回程度ある	
					③たまにある	
					④ほとんどない	
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2／3くらいが	
					③利用者の1／3くらいが	
					④ほとんどいない	
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2／3くらいが	
					③利用者の1／3くらいが	
					④ほとんどいない	
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2／3くらいが	
					③利用者の1／3くらいが	
					④ほとんどいない	
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2／3くらいが	
					③利用者の1／3くらいが	
					④ほとんどいない	
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2／3くらいが	
					③利用者の1／3くらいが	
					④ほとんど掴んでいない	



地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

運営推進会議を通して、地域交流に取り組んでいる。現在、ボランティアの受入れを進めている。入居者の自立支援に取り組んでいる。料理・掃除など家事全般に関して入居者の個々の能力を發揮できる環境づくりを行っている。利用者のご家族の意向を尊重した個別ケアに取り組んでいる。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一人一人の入居者様に対する思いを取り入れ、独自の理念をつくり日々のケアに生かしている。	○	今後は地域密着型サービスとしての取り組みを増やし、より心豊かに生活の質を上げていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活介護の中で理念である、その人らしさを大切に敬意の心をもってあきらめずゆったりと支援していくよう声を掛け合っており取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	「花見会」等の行事の際にご家族様へ理解・協力が得られるよう説明会を行った。	○	事業所の理念や役割等を繰り返し説明し、まずは地域交流の場をつくり参加を呼びかけていきたい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に民家や店などがほとんどなく、交通の便も悪いなどの理由で、積極的に実施できていない。	○	近隣には学校や施設があるので、積極的にこちらから訪問する等、まずは交流する事から始めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加、幼稚園児の慰問など少しずつ交流の取り組みを始めている。	○	今後、地域活動への参加やボランティアなどの協力を得ながら継続していける交流づくりをしていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社会福祉協議会へ協力を依頼し事業所の現状を報告しつつ、社会参加の機会を促している。	○	地域への認知度が低い事を改めて確認することができたので、今後は、ご家族の理解を得ながら積極的に取り組んでいきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のミーディングで項目を読みながら、サービス評価を話し合い、課題に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーから質問、意見、要望を随時受け、双方向的な会議を行いサービスの向上に役立っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、特に行っていない。	○	必要に応じて行っていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会やマニュアルを通して学んでいる。	○	必要に応じてご家族様への説明がスムーズにできるように説明練習をしていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による虐待防止のため、特定の入居者からのストレス（暴言・同じことを繰り返す聴くなど）を継続的に受けないように、職員の勤務分担に配慮をして、ストレスの軽減を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、項目にそって、必要に応じて補足説明を入れながら説明している。不明な点が無いか確認している。契約の訂正時は、書面にて通知し同意をえている。その際、必要に応じて、口頭で説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や催しへの出席の声かけを行 い、その都度意見・不満・苦情を尋ねてい る。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族の来訪時には、声をかけ、近況報告を行 っている。何らかの変化や問題が生じた 場合は、必要に応じて電話などで報告を 行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見、不満、苦情に対して職 員間で対応を検討し、質の向上を図ってい る。運営推進会議などで、必要に応じて内 容の報告を行っている。	○	家族会の開催に向けて準備中（ご家族をお 呼びしての行事の時に家族会の発足説明予 定。3月24日（土）
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	会議の議事録を回覧し、検討課題等につい て、必要に応じてミーティングで話し合っ たり、会議に出席してもらい意見を反映せ ている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の状態の変化に伴い、早出、遅出 等、勤務のシフト、人数などの調整を行い 対応している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの関係の継続のた め、ユニットの合同行事なども取り入れて 馴染みの関係を作っている。夜勤者など兼 務のため全ユニットを把握している。併設 の老健との職員交代も最小限に行ってい る。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	基本的人権を尊重し、差別や偏見なく公正な職場環境作りを行っている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重のため正職員・パート職員に対して研修の機会をもうけている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員、新入職員教育を行っているが、計画・マニュアルが不十分である。	○	現在、計画・マニュアルを充実されるため、バージョンアップを図っている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、職員が自主的に地域の施設などの訪問を通してお互い勉強させてもらい、サービスの向上に貢献している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在、職員専用の休憩室が無く地下の更衣室を兼用している。	○	心身を休める心地よい場所の確保と、ストレス解消を図るため、コミュニケーションを図るように雰囲気作りを行っている。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の状況を把握し、努力や成果について把握している。職員の健康状態を把握し、体調不良時は、職員の交代勤務で対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活を共に過ごす中で、行動や表情、人間関係等の変化をできるだけ職員が早目に気づき、話を聞く事を重視しカンファレンスを行っている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時は、必ず近況報告を行うようにしているが、ご家族の要望を積極的には、聞けておらず面会の頻度や職員によって差がある。	○	行事へのお誘いを増やし聴く機会を増やしていく。今年度より家族会の発足も予定しており、交流を深めていきたい。
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を確認し、各関係機関（主治医・行政・地域の方々・他）や同敷地内にあるグループ施設（医師・看護師・理学療法士・介護福祉士・他）等へ相談し対応を実施しています。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを計画する段階でご本人様の意向を聞く様にしている。又、利用時はご本人様のペースに合わせ実行するようにしている。	○	地域との馴染みの関係はまだあまりできていないので、まずは少しずつ継続していける関係づくりから始めようとボランティアの訪問等を依頼をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや掃除等、共に行う事が習慣となりつつあり、その中でお互いに教えていただき、悩みを聞き、共に悲しむという生活シーンが多く見られるようになった。	○	自ら行動ができない方、意思表示の困難な方に対してまだ職員からの一方的な支援になっている事が多いので、今後も認知症ケアの取り組み等の勉強会を行ってきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の認識が変わってきてからは、少しずつご家族との関係が深くなってきているが、お互いがどこまで話していいのかとまどっている部分がある。	○	今後は、より交流を深め、ご家族との信頼関係をつくっていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「にこにこ新聞」を発行したり、お手紙など送っている。ご家族を招いての行事も、年2回から4回に増やして対応している。	○	疎遠なご家族への対応策として又は、個人情報保護の観点からも病院受診の同席などを働きかけていく予定。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会を促し関係が途切れないように、状況に応じて、外出支援を行っている。	○	馴染みの方との関係が途切れてしまった入居者に対して、新たな馴染みの関係をつくれるように取り組んでいきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	近頃では、利用者間で名前を呼び合いお世話をされる方など、集団での役割分担ができ、協力体制ができているが、人間関係のトラブルも発生している。	○	良好な関係を築く為に、サインを見逃さず情報を共有しケアに結び付けていきたい。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、地域にいらっしゃる方の面会や行事への声かけなどは、できるだけ行っているが、充分ではない。	○	ご家族への継続的な係わり合いを考えていきたい。
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	リスクを重視し、ご本人の意向が尊重されていないケースが多かった。現在、プランに徐々に盛り込み実行できるように取り組み始めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の私の生活シートを利用、又思い出の写真などを持ってきて頂き会話を広げ情報を得ている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	必要に応じてセンター方式を使用しながら利用者の1日の流れ、状態を把握し自立支援に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を尊重しながら、できるだけ自立支援に向け関係者と話し合い、確認を取りながらプラン作成を行っている。	○	ご本人様の意志伝達の困難なケースについて、再度ニーズの把握をし、よりよいプランにしていきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて再アセスメントを行い現状にあったプランに変更し、対応をおこなっている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を日々記録し、情報を共有しながら職員同士のケアカンファレンスなどを行い必要に応じてケアプランに反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援している。	○	施設入所の場合、本人家族の希望に添った生活の場所探しの手伝いを行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアによる慰問行事などに参加している。その他に、地域の社協のボランティア窓口を利用できる、ボランティアの協力依頼をおこなっている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	特に行っていない。	○	要望があれば行っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じてアドバイス等を受けられる関係である。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じた医療機関の受診が受けられる体制である。ご家族様の受診介助が無い場合は、ご本人様とご家族様の同意と納得を得て病院の変更を行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、主治医へ相談し、御家族の希望等も考えた上で治療できるよう支援している。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応可能な、看護職員が日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関とご家族様と連携を取りながら情報の提供し環境の変化による混乱を防いだり、スムーズな退院に向けて体制をたてている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族様と医療機関と三者で対応方法を協議し、方針を共有している。	○	当施設で重度化、終末期の介護をどこまで受け入れができるかを現在検討中である。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族様と医療機関と三者で対応方法を協議し、方針を共有している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護添書を使用しご本人様の状況、ケアの注意点等の情報提供している。必要に応じて口頭での説明も行っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関しては、職員間でも徹底した指導を行っているが、直接的な声かけ方法など、ご本人を傷つける結果になってしまったことがあり、気をつけるよう心がけている。	○	トイレ誘導時の声かけ方法など職員の教育の徹底を図り、ケアの質の向上に努めたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活のなかで、ご本人に自己決定の機会を意識的に設けている。必要に応じて、説明し、自己決定を支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせて、職員の勤務時間をシフトして対応している。しかし、夜間体は、1人体制なので、急変時など以外は、職員の夜間呼び出しを行っていない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々の衣類選び、外出、行事時の化粧等御本人の好みで行えるよう支援しているが、理容室への外出は実施できていない。	○	御本人の望みの支援が出来るよう今後御家族様地域への協力体制を作りつつ取り組んで行きたい。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりは、「普通の暮らし」として自ら調理や片付けを手伝う習慣ができてきている。月2回の食事会では、入居者にメニューを決めていただき、職員と一緒に同じものを頂いている。	○	食事づくりに参加できない方への支援とより一人一人の好みにあった食事を楽しめるよう取り組んでいきたい。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人より希望があれば、買い物の為の外出支援を行っている。	○	今後は、一人一人の意向を尊重した選択しやすい雰囲気づくりなど工夫をしていきたい。
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握は、状態の変化など必要に応じて行っている。自立支援を促し残存機能を維持・向上できるように取り組んでいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望を聞き、ほぼ実施できている。入浴拒否や夜間の入浴実施はできていない。	○	入浴拒否者の原因・理由の発見と家での暮らしとしての入浴を重視し、時間の選択や環境整備、工夫をしていきたい。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調・表情・動作などから安心して無理なく一日を過ごせるよう支援できている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話の中で、生活歴や楽しみ等を聞くように心がけ、すぐに実施できる事は、実施している。又、率先して行われる役割は、継続できるよう支援している。	○	今後はよりニーズを支援できるよう取り組んでいきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内の金銭所持は、行っていないが、必要時には、使えるように支援している。	○	紛失のトラブルを防ぐ為、全介助していたが、今後、買い物時には、希望される入居者様、御家族にも理解をして頂き職員の意識づけにて、多少、お金を所持できるようにして行きたい。
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所への買い物等は希望に添えるよう支援できているが、お一人一人のその日の希望に必ずしも合わせられていない。	○	希望のある方にケアが集中しがちなので、うまく言葉に出せない方への思いを理解し支援できる力をつけて行きたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の希望に添って演劇鑑賞・外食・ドライブ等実施できたが、気軽に掛けることが出来るという環境はまだできていない。	○	ホームでの体制作りを強化し御家族様と共に楽しめる機会をつくって行きたい。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があった際はすぐに対応できているが、必ず職員を通してのやり取りでしか実施できていない。	○	もっと当たり前に自らでやり取りが出来るよう支援していくと共によく言葉にだせない方へも「声を聴いて頂く」等の一人一人にあったケアをしていきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	気軽に来て頂けるよう訪問時は居心地よく過ごせる様「お茶を出す」等行っているが立地のせいか御友人等の訪問が少ない。	○	これまでの馴染みの関係が絶たれぬよう「訪問が少ない理由」を把握し支援していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対し、身体拘束について内容とご本人様の受ける弊害と苦痛をミーティングの中で話し合い、現在、身体拘束をしないケアを実践している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	山の中で横に川があり、近くに民家もなく地域とのつながりも殆ど無い環境の中、職員が常時出入りを見守ることの出来ないため、玄関に鍵をかけ、利用者の安全確保を最優先にしている。見守り可能な時は、開放している。玄関以外は、日中階段・エレベータ・汚物倉庫などを除き開放できている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	車イスからの立上り等で転倒が予測される利用者に対して見守りし易い位置を確保し、夜間、転倒転倒防止の為、ナースコール等で対応している。	○	夜間時、職員が1人で巡視しているが、利用者の状態が悪化してきた場合の状態把握方法の検討が今後予想される。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全確保のため物品チェック項目を必要最小限に行っている。必要に応じて鍵をかけたリ、手の届かない所に片づけたり、利用者の状態に合わせてチェック項目の追加・削除を行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居時、状態変化時等に応じて転倒の危険性などリスクを職員間で話し合い、ケアプランにも反映している。事故発生などは、ヒアリハットの報告、記録を行い、早急にカンファレンスを行い再発防止の検討を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に、マニュアルや勉強会を通して、急変や事故発生時対応に備えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老健施設との合同避難訓練や設備点検、災害マニュアル作成行っている。	○	確実な避難誘導が行える様、入居者様全員参加での火災を想定した訓練を予定している。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に応じて転倒の危険性などリスクをご家族と話し合い説明し、理解を求めている。ご家族の要望などで帰宅要求の興奮があり、玄関の開放はできていない。今後、状態変化を見ながら徐々に開放できるように見直しを行っているが困難である。	○	今後はお一人お一人の尊厳重視と安全を確保しつつリスクマネジメントを行いたい。又、御家族様との話し合いの場を多く設けて行きたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の傷病名等も把握し、常に顔色・状態の変化に気付けるよう努め異常があればすぐに看護師又主治医へ報告し対応している。	○	職員の観察力にまだ差がある為、今後も勉強会等を断続して行い力をつけて行きたい。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に処方箋での確認や誤薬を防ぐ為の職員への認識を徹底し服薬後の状況変化はすぐに主治医へ報告している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の観察はシートを利用し日々行っており、便秘がちな方の把握もできている。又自然便を促し、食事・飲み物の工夫をし、状態に合わせた薬の調節を行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ずお茶を飲用して頂く事と、就寝前の口腔ケアを習慣としている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士によりカロリー計算された食材で作っている。糖尿病やアレルギーの方の調節は職員が把握し行っている。水分量はお茶の時間を設け促している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	流行が予想される感染症についての資料を作り掲示している。日中・夜間にトイレ・手すり・ドアノブ等消毒を行っている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事の作り置きは必ず2時間以内とし、生物は当日届いた物を使用している。食材は全て検食分として保管し、食器類は全てアルコール消毒し、生野菜・果物は消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりには常に季節の花を飾っている。又入ってすぐにソファの設置。月ごとにテーマを替えた貼り絵や飾り物をしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはソファを置き落ち着ける空間となり、職員との交流も楽しまれている。居室ドアに暖簾をつけている。	○	浴室・廊下・トイレ・居室等まだ家族的で居心地の良い空間になっていない所を改善していきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・ステーション・食堂の小スペースにソファを設置しており思い思いに使用されている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	近年入居された方には使い慣れた家具等の持ち込みをお願いし好みの部屋作りができていたが、以前より入居している方によっては、できていない方もおられる。居室によって差がある。	○	すでに入居年数が経っている方へは混乱が生じぬようより御本人が居心地のよい空間を作っていく。又、居室間違いやプライバシーを配慮し、ドア前に好みのノレンをつけるよう取り組んでいる。
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	立地的に自然環境に恵まれている為、日々外の空気を入れる事は習慣となっている。又、冷暖房は一人お一人の体調を考え特に居室内での使用時は注意している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや廊下の手すりは設置されているが、食堂・居室・脱衣所には手すりがない為介助となり自立支援ができにくい箇所もある。	○	家具の配置や福祉用具の使用を含め、お一人お一人の状態に合わせた工夫をしていきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や行動の失敗があった際は原因や理由を考え必要以上に排除する事は避け、自立できるよう工夫している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階・食堂・ベランダにはプランターを設置し季節の花を飾っている。入居者様同志で花の水やりなどされ楽しまれている。	○	居室によって差がある為、ベランダの活用等は今後も力を入れて促す。常に職員の誘導ではなく、自由に行き来が出来る空間作りを検討して行きたい。



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

運営推進会議を通して、地域交流に取り組んでいる。現在、ボランティアの受入れを進めている。入居者の自立支援に取り組んでいる。料理・掃除など家事全般に関して入居者の個々の能力を發揮できる環境づくりを行っている。利用者のご家族の意向を尊重した個別ケアに取り組んでいる。